

開門反対に理屈なし？ 谷川政務官

理屈じゃないんだ

谷川政務官 広津議員に

【毎日新聞15日朝刊】諫早湾干拓事業訴訟「開門支持で」総すかん 佐賀の議員、長崎で(自民会合)「理屈じゃないんだ」「勉強せろ」

長崎市内で13日に開かれた自民党の地元衆院議員の政治資金パーティーで、国営諫早湾干拓事業(諫干)の潮受け堤防開門をめぐる、長崎、佐賀両県の間党衆院議員が反対と賛成の立場から舌戦を繰り広げ、佐賀の議員が「総すかん」となる場面があった。

農水政務官を務める谷川弥一氏(長崎3区)が、開門を求めた佐賀県選出の副農相を相手に「何だこらっ」と大げんかしました」と裏話をあいつつ披露。「長崎県民の利益を守らなければいけない」と開門阻止の姿勢を強調した。

これに対し、続いて壇上に立った佐賀県を主地盤とする広津素子氏(比例九州)が「農業、漁業の両立は可能。そういう(開門の)方向でいくと思うので、

応援してもらいたい」と反論した。

開門反対の立場を強める長崎県内のパーティーだっただけに、会場内は広津氏に猛反発。同県連幹事長は「分かつたらん。勉強せろ」と「説教」し、谷川氏も「理屈じゃないんだから黙ってたほうがいい」と苦言を呈した。広津氏は「利害を超えて開門を考えてもらいたい」と納得いかない様子だった。



開門を訴える広津議員(自民)

理屈でなく私利？

広津議員に諫早水門の開放は「理屈じゃない」と苦言を呈した谷川弥一農水政務官は、自身の長男(配偶者は長崎県知事の長女)が干拓地に入植している企業の取締役(市民の指摘を受け現在は退任し谷川氏の政治団体会計責任者が取締役に就任)

を務めていた。そのため、長崎県民からは、谷川政務官は、私利私欲のために開門に反対しているとの批判の声が上がっている。

開門求め水上パレード(大浦)

佐賀県有明海漁協大浦支所の漁業者約200人が26日、藤津郡太良町の大浦沖に漁船約130隻で繰り出し、大漁旗をなびかせながら海上をパレードした。諫早湾干拓事業訴訟で控訴した国への抗議の意思も込めており、赤木勝



蔵運営委員長は「諫早湾潮受け堤防の開門なくして有明海の再生はあり得ない」と訴えた。

カトリック司祭(長崎)

諫干の営農と調査の両立祈念

18日、長崎新聞「オピニオン」欄に農業と漁業被害調査の両立のための開門を求めるカトリック司

祭の意見が掲載された。以下に引用する。

「諫干の営農と調査の両立を」
予想はしていたが、やはり農水省は、諫早湾の開門調査を命じた佐賀地裁の判決を不服として、福岡高裁に控訴した。

農水省は、いつまで有明海漁民を苦しめれば、気がすむのか。

そもそも若林農水大臣は諫早湾干拓事業をどれだけ知っているのだろうか。干拓工事が始まってからの諫早湾周辺の漁場は、かつての干潟は見る影もなく、漁獲高は激減している。名物のタイラギは、十五年も休漁が続いている。

若林農水大臣が控訴した直後、有明海漁民の一人はこう嘆いた。

「こんな大臣に、わたしたちの命を預けていたかと思うと悔しくてたまりません」。この気持ち痛いほど分かる。

農水省も農水大臣も、干拓農地での営農と開門調査が両立できる方策をなぜ、考えようとしなかったか。全国の英知を集めれば、諫早湾の開門調査ができないはずがない。現に、開門を訴えている漁民たちは、調整池の水を使わない、営農方法を提案している。

長崎県は防災のために開門反対と言っているが、高潮が予測されるときは、排水門を閉じればよい。福岡高裁が、佐賀地裁の判決を覆さないよう祈る。